

弟の経験をくわしく書き、自分の考えの根拠を具体的に説明している。

反対の立場を明示し、その理由を次の段落で述べることを示唆している。

私は、小・中学生によるスマートフォンへの反対である。スマートフォンは、情報検索やコミュニケーションのツールとして有用であるが、使い方を誤ると、予想外のトラブルを起こしかねないからだ。反対と考える理由を、私の弟の経験から考察していきたい。

私の弟は、中学二年生の頃からスマートフォンを所持し、主に外出時の家族との連絡や友人とのメッセージ交換、SNSなどの目的で使用している。友人からのメッセージに即座に返信するため、夕食時や入浴中、就寝の直前までスマートフォンに熱中することがよくあり、わずかな変換ミスによる勘ちがいから、友人と仲たがいし、友人関係に悩む姿も度々見られた。

人と人が向かい合って交流することが、コミュニケーションの基本であると私は考える。それによって感情が豊かになり、他人の気持ちを推量できる人間が育つのである。しかし、文字だけの情報から正しく相手の意図をくみ取ることは、小・中学生のみならず、高校生や大人でも難しいことではないか。フェイスブックやSNSでの「炎上」といったトラブルが絶えないことがその証拠であろう。今、小・中学生に必要なものは、情報や相手の意図を正しく判断する能力であり、その力が十分に身についていない段階では、スマートフォンを使うべきではない。発達年齢に応じたデジタルツールの運用が、今後ますます求められるだろう。

800

600

400

200

第一段落で示した反対の立場を改めて明示し(双括型)、説得力を演出している。

自分の考える「コミュニケーションの定義」を示し、「発達段階」という観点から考察している。